

国立大学における図書館職員の キャリア形成を考える

九州大学附属図書館
事務部長 濱崎 修一

2008/12/2

平成20年度国立大学図書館協会
シンポジウム(西会場)

1

国立大学職員をめぐる状況の変化

- 国立大学法人化
- 18歳人口の減少
- 業務の多様化と複雑化
- 国際化の進展
- 新たな業務の創出

2008/12/2

平成20年度国立大学図書館協会
シンポジウム(西会場)

2

国立大学の法人化

- ・管理運営
文科省の内部組織から独立した法人へ
中期目標・計画による運営と評価
- ・財務
歳出区分の制限なし
運営費交付金は渡切りで使途は特定せず、
繰越可能(中期目標期間の範囲内)
- ・人事
非公務員型で学長に任命権があり、定員管
理は各大学の裁量

2008/12/2

平成20年度国立大学図書館協会
シンポジウム(西会場)

3

国立大学事務組織の変化

- 理事体制による経営(意思決定と事業)
- 企画部門の強化
- 支援機能の明確化
- 法令順守、危機管理担当部署の設置
- グループ制の導入

2008/12/2

平成20年度国立大学図書館協会
シンポジウム(西会場)

4

大学職員のキャリアパスを考える

- 大学職員の役割の変化と国立大学
- パスは組織のトップまで通っているか
- 研修は役立っているか
- 人事制度と専門職集団

2008/12/2

平成20年度国立大学図書館協会
シンポジウム(西会場)

5

図書館組織の現状

- 図書館の位置づけ
館長、職員組織、職員数、職員採用方法
- アウトソーシングの拡大

2008/12/2

平成20年度国立大学図書館協会
シンポジウム(西会場)

6

大学図書館をめぐる状況とコンピテンシー

<大学図書館をめぐる状況>

- 学術情報の創造、流通、共有化の変化
- コレクションの範囲拡大
- 学内情報システムとの連携
- 多様化、サービス拡大、他機関との連携
- 図書館業務、サービスの説明責任
- 予算、人員縮小の中のサービスの高度化と新事業展開
— 国立大学図書館協会人材委員会「大学図書館が求める人材像について」(検討資料)から

2008/12/2

平成20年度国立大学図書館協会
シンポジウム(西会場)

7

<コンピテンシー>

• 専門的コンピテンシーモデル

情報資源や情報アクセス、情報技術および運用管理などに関する知識、スキルに基づいて優れた図書館業務サービスを遂行できる能力

• 一般的(個人的)コンピテンシーモデル

大学図書館職員だけに限られた能力ではないが、効率的、効果的な業務の遂行、組織の一員として利用者に対し積極的なサービスを提供するために必要な能力

2008/12/2

平成20年度国立大学図書館協会
シンポジウム(西会場)

8

コンピテンシーモデルの活用に向けて

- コンピテンシーモデルとキャリア形成
制度： 組織、評価、処遇
キャリアガイドの作成
- 研修プログラムの確立
専門研修、組織内研修、実務研修
マネジメント研修

2008/12/2

平成20年度国立大学図書館協会
シンポジウム(西会場)

9

九州大学図書館におけるキャリア形成

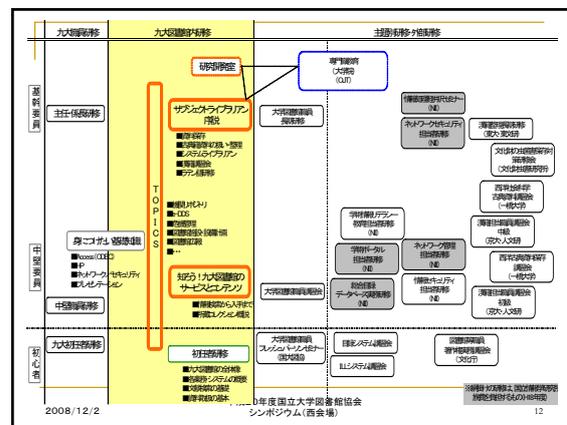
- 研究開発室の活動と図書館職員の育成
- キャンパス移転事業への参画
- 研修事業と研究会活動
- 国際交流における人的交流
- 学内インターンシップ構想(案)
- 図書館長、管理職の役割
- 第二期中期目標、計画策定に向けて

2008/12/2

平成20年度国立大学図書館協会
シンポジウム(西会場)

10

研究開発の経緯	内容	概要
1 研究計画に関する分野		
研究開発計画に関する調査研究	平野 康之(理工学研究所教授)	大分県立大学における研究開発計画について、調査及び評価の観点から、調査計画の立案・実行に関する調査研究を行う。
海外の大学図書館に関する調査研究	松原 幸彦(経営研究センター教授)	海外、特にアジア圏の大学図書館との連携関係の進展についての調査研究を行う。
図書館業務の専門性向上に関する調査研究	竹村 昭行(人文科学研究教授)	大学図書館業務に関するアンケート調査の結果に基づき、その内容や実施方法、実施するべき業務について調査研究を行うこととし、その結果を基にサービス向上のための調査研究を実施する。
2 電子図書館システムに関する分野		
電子図書館システムの研究開発	坂本 隆二(情報学研究所教授) / 高田 浩二(情報学研究所教授) / 加藤 大輔(システム情報科学研究教授) / 藤上 隆彦(経営研究センター教授) / 藤原 隆彦(経営研究センター教授) / 大野 隆彦(経営研究センター教授)	電子図書館システムの構築や利用に関する調査研究を行う。特に、学内ネットワーク環境の構築や利用に関する調査研究を行う。また、学内ネットワーク環境の構築や利用に関する調査研究を行う。また、学内ネットワーク環境の構築や利用に関する調査研究を行う。
研究開発による図書館業務に関する調査研究	藤原 隆彦(経営研究センター教授)	図書館業務の効率化や省力化に関する調査研究を行う。特に、研究開発による業務の効率化や省力化に関する調査研究を行う。
レファレンス業務のシステムに関する調査研究	竹田 正幸(システム情報科学研究教授)	レファレンス業務の効率化や省力化に関する調査研究を行う。特に、研究開発による業務の効率化や省力化に関する調査研究を行う。
3 コンテンツ形成・発信に関する分野		
研究開発による資料提供に関する調査研究	藤原 隆彦(経営研究センター教授)	研究開発による資料提供に関する調査研究を行う。特に、研究開発による資料提供に関する調査研究を行う。
図書館業務の効率化や省力化に関する調査研究	竹田 正幸(システム情報科学研究教授)	図書館業務の効率化や省力化に関する調査研究を行う。特に、研究開発による業務の効率化や省力化に関する調査研究を行う。
図書館業務の効率化や省力化に関する調査研究	Wikipedia Media(言語文化研究教授)	Wikipedia Media(言語文化研究教授)による調査研究を行う。特に、Wikipedia Media(言語文化研究教授)による調査研究を行う。



2008/12/2

平成20年度国立大学図書館協会
シンポジウム(西会場)

12

図書館職員ステップアップ研修

- 図書館専門職員として知識の深化及び能力・資質の向上を図るとともに、九大図書館職員としての連帯性を高め、組織の活性化を図る。
- 個人にとっても組織にとっても一過性のものにならぬよう、企画・立案・実施・検証・評価のサイクルを確立し、常に最新の事情に対応できる研修とする。
- 個々の研修が、受講者のその後の自己研鑽に資するものであるように留意するとともに、組織的にも問題解決への発展性を持つ研修とする。
- 研修の受講を、個人々のキャリアとして評価してゆくことを検討する。
- テーマによっては、近隣の大学・公共図書館等関係団体へ参加を呼びかけ、地域との連携を強化する。

2008/12/2

平成20年度国立大学図書館協会
シンポジウム(西会場)

13

ライブラリーサイエンス専攻構想(案)

- ・図書館、文書館(史料館)、情報科学等に関連した教員の参加
- ・学生の希望サブジェクト分野の研究院・学府長も参加
- ・図書館専門員(一定の条件を満たした図書館職員)も教員として参加
- ・学内外の図書館職員等も社会人学生として受入れる
- ・図書館、史料館等におけるOJTを単位にする
- ・司書に加えてアーキビストの育成も行う

2008/12/2

平成20年度国立大学図書館協会
シンポジウム(西会場)

14

キャリアアップのために

- ・図書館組織のあり方
専門性と人事制度
図書館はファカルティ
他組織との連携(統合ではない)
- ・モチベーション向上のために
話題性、可能性、コミュニケーション
柔軟性、具体的課題の解決

2008/12/2

平成20年度国立大学図書館協会
シンポジウム(西会場)

15